

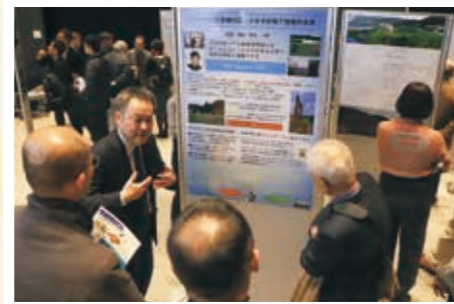


釜石高の野呂さん、佐々木さん、洞口さん(写真左から)。3人は今後も防災について学んでいきたいと抱負を述べました

## 高校生による震災伝承活動報告会

2月11日〔陸前高田市 高田松原津波復興祈念公園〕

東日本大震災津波の伝承活動を行う高校生による活動報告会が、陸前高田市で開催され、釜石高と大槌高の生徒が、これまでの活動内容と今後の抱負について話しました。釜石高の佐々木千芽さんは、ラグビーワールドカップ会場で約750人の来場者に震災の教訓を伝え、野呂文香さんは、津波に馴染みのない内陸部の甲子小で津波防災授業を実施、洞口留伊さんは、釜石鶴住居復興スタジアムのキックオフ宣言により世界中の人に感謝の思いを伝えることができました。大槌高の佐々木結菜さんは、自身の実体験を基にした紙芝居による伝承活動について報告しました。



東京大学社会科学研究所が平成28年度から取り組む「危機対応学」釜石調査の成果を報告しました

## 危機対応学成果報告会・東京大学社会科学研究所覚書締結式

2月15日〔釜石市民ホールTETTO・市長室〕

自然災害や産業構造の変化、人口減少や高齢化など一つの地域に「危機」が多層化する中、地域の未来を創造するためには住民によるちょっとしたアイデアと取り組みの積み重ねが必要で「いまあるものでやりくりする、プリコラージュの発想が鍵を握る」と研究成果を報告しました。また同日、同大社会科学研究所と共同設置した危機対応研究センター開設期間延長の覚書を締結。新たに三陸各地の小中学校、高校での対話型授業を実施し、地元への愛着と希望を育む人材を育成する「海と希望の学校」事業も計画しています。



第1回から32回までの公演で、のべ3万7,953人が来場。今回も2回の公演で約850人が来場しました

## 第33回釜石市民劇場

2月16日〔釜石市民ホールTETTO〕

今回で33回目を迎えた釜石市民劇場は「釜石のあかひげ 小泉日出雄伝」と題し2回公演。戦後の地域医療に献身的に貢献しながら市議会議員を20年務め、医療と政治を通して人生をささげた小泉日出雄を笑いと涙でつづりました。舞台では、弱いものを助ける正義感や平田地区への診療所開設のため奔走する実直な姿、患者を茶目っ気たっぷりで問診する日出雄の様子が描かれ、観衆は偉大な先人が残した功績に改めて感謝しました。公演終了後の会場は、出演したキャストやスタッフに対する大きな拍手で包まれました。



昭和44年に発足した釜石市交通指導隊の50周年を祝う参加者ら

## 釜石市交通指導隊発足50周年記念式典

2月22日〔ホテルサンルート釜石〕

市内の児童生徒の登下校の見守りや、長年にわたる交通安全意識の高揚に貢献してきた釜石市交通指導隊員5人が、市長表彰を受けました。平田小6年の箱石陽土さんと高橋優さんは日ごろの活動への感謝を述べ花束を贈りました。受賞者は次の通り。故藤井泰男さん(勤務36年)、西村淳一郎さん(27年)、多田慶三さん(23年)、上野敬壽さん(23年)、佐々木曉美さん(21年)

## 岩手大学地域連携フォーラム

2月24日〔釜石市民ホールTETTO〕

今年度は「釜石の水産とものづくりの可能性」をテーマに開催されました。岩手大学の岩淵明学長は、地域に根差したキャンパスを目指すために大学と地域との連携強化が重要であり、大学の取り組みを地域にお知らせする機会になるとあいさつ。

釜石キャンパスの概要や、昨年度から釜石キャンパスを拠点として研究活動に取り組んでいる、農学部食料生産環境学科水産システム学コース4年の遠藤裕介さん、谷瀬香保さん、小田彩さんが研究成果を発表しました。大学と釜石の企業、市との産学官連携により、それぞれのさらなる成長が期待されます。



ナメタガレイの生態、地域での活動について発表する谷瀬さん



釜石高校スーパーサイエンスハイスクールの研究成果として、同校生徒が「eスポーツ」や「甲子柿」についての研究成果を発表しました

## 第7回 新春 韋駄天競争

2月2日〔只越集会所前～仙寿院〕

「津波が来たら速やかに高台へ」と、迅速な避難行動を啓発する韋駄天競争に、市内外の1歳から64歳までの124人が参加しました。標高差26m、全長約280mのコースを駆け抜け各部門で1位となった人は福親子・福少年・福少女・福男・福女に認定されました。見事きょうだいで1位となり福女になった山本恵里さんは、「何事も諦めないことが大事、今日は津波から逃げることを意識しながら走った」と話しました。表彰式の終了後には、海に向かって東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげました。



もうすぐゴール、親子の部には18組37人が参加。「命を守る」大切さを学びました



見事に1位でゴールし福の認定を受けた参加者ら

## 糖尿病予防市民公開講座

2月9日〔釜石市民ホールTETTO〕

弘前大学大学院医学研究科 村上宏さんが「明日からできる糖尿病予防～健康長寿のために～」と題して講演しました。糖尿病になると脳卒中、認知症などのリスクが2倍に膨らみます。村上さんは「人生のラスト10年をどう過ごしたいですか」と来場者に問いかけ、よくかんで食べる、腹8分目を心掛ける、1日30分運動する、禁煙など、日常生活の中でできる糖尿病予防のための取り組みを、軽妙な語り口で紹介しました。



真剣に耳を傾ける参加者。講座開始前には血圧測定や血液検査ができる健康チェックコーナーも設けられました

## コーディネーター委嘱状交付式

### 教育魅力化コーディネーター

2月13日〔市長室〕

市内の高校を拠点に学生と地域をつなぎ、高校生のキャリア構築支援となる「釜石コンパス」を担当する教育魅力化コーディネーターとして八木橋朋広さん(埼玉県出身)を委嘱しました。地域おこし協力隊として市のオープンシティ推進室に所属しながら、釜石高のスーパーサイエンスハイスクールとしての研究成果や学校行事を情報発信し、高校の魅力向上に取り組めます。

八木橋さんは「学が楽しさを伝えた」と語り、最長3年の任で活動します



### 移住コーディネーター

2月6日〔市長室〕

釜石の魅力や全国に発信し、移住希望者への情報提供などを担う移住コーディネーターに4人を委嘱しました。4人はそれぞれの本業がある中、仕事や活動など得意分野を生かして釜石の移住・定住情報をPR。手塚さや香さんは岩手移住計画の活動を通して、釜石への移住推進にも注力します。伊藤聡さんは(一社)三陸ひとつなぎ自然学校代表として、ボランティアの受け入れやイベント開催の経験を継続。城守理佳子さんは(株)パナ東北創生での勤務を生かし、大学生のインターンや企業へのマッチングを担当。岩手大学釜石キャンパスで学ぶ石黒智大さんは、ドンコの研究で魚のまち釜石を発信します。



写真左2番目から手塚さん、伊藤さん、城守さん、石黒さん